

少子化に対する町の支援策は

三井幹人 議員



問：三井幹人議員
町長の在職二年間の総括と、今後の課題は。

答：矢嶋民雄町長
公約にはほとんど手をつけてきた。主な課題は合併問題であり、説明会では態度を表明する。

問
各地区から出されている要望は、どう処理・回答されているか。

答：町長
内容・予算・緊急度について検討し、現地視察を実施した上で回答している

問
第三次行革大綱の実施進捗よく状況と、取り組み体制は。

答：町長
実施計画の年限を三年とし、社会の求める改革に即応できる体制とした。進捗よく状況の点検を半期で行い、行政改革推進委員会に報告し指導を受けながら、下半期で総括する仕組みとした。

問
少子化問題に対する所見と対策は。子供への支援のほかに、親世代の定着促進のために総合的に検討・計画する専任機関を設置する考えはあるか。

答：町長
憂慮しているが全国的な問題でもあり、町の組織を



ゆかいな子供たち・・・

総合的に動員し、できることは実施する。今のところ効果は余り出ていない。

問
親世代の定着促進には児童の学力レベルの向上も必要と考えるが、このことについての考え方と取り組みは。

答：小松睦示教育長
児童の「知・徳・体・意」の総合的な向上を教育方針としている。特に学力の向上だけを教育方針とすることは考えていない。

清泉荘の多目的活用を

平出英夫 議員



問：平出英夫議員
平岡・烏帽子住宅団地の今後の計画は。JRの新駅を新設し、宮崎駿監督のテーマパークを建設してはどうか。

答：矢嶋民雄町長
町長の立場として土地開発公社の問題をこの場で発言できないので、そのようなアイデアを土地開発公社に示したい。

問
老人福祉センター清泉荘の多目的活用を。

答：町長
昨年は1万1千人が利用した。現在デイサービスセンターを建設するための設計に入っている。家族が一緒に入浴介護可能な施設ができるかは、町としても考えさせてもらう。

人がどういう姿で死を迎えるかは重要なこと。そこに行政がどう関わるかは自治体の存在価値を問われる。力を尽くし、金を使っていくことに迷うべきではないと考える。

問
南中学校の体育館は、富士見高原中と格差があるの

で、第二体育館を建設して欲しい。

答：小松睦示教育長
体育館は狭く、天井は逆V字型で、バレーボールのレシーブが当たる。改築されない限り改善されない。海洋センターの体育施設も利用できるので依頼があれば考えたい。今年床面を全面研磨し、ラインを引きワックスをかける予定。新体育施設は新しい構想の中で考えてもらいたい。



地域の拠点として活用を